

数年間で誇る歴史がある手彫り仕上げ印鑑

令和7年10月

山梨県庁
リウ・ケイティ

feel



山梨県の手彫り印鑑

【印鑑及びはんことは？】

西洋の手書きの署名と異なり日本では名前を署名する際、ハンコを使います。「はんこ」とは、個人や組織が当事者であることを証明する印章のことをです。元々印章の文化は中国から伝わりました。似ている使い方がありますが、日本では日常生活で多く使われています。はんこを押した跡のことをまとめて「印鑑」と呼んでしまうことは日常では多いですが、はんことは、「個人や組織が当事者であることを証明するしるし・道具」のことであり、印鑑とは「押した時に紙にうつる文字」のことです。

ハンコの形状には、一般的に使われるまっすぐな円柱状の「寸胴」と、天頂部から印面までくびれがある「天丸」の2種類があります。印章は木製、石や石英の他に、動物の角と牙を加工して造られるものもあります。印鑑にはいくつかの種類があります。「実印」は主に住宅ローンや自動車などの高額購入、銀行書類への署名などに使用されます。一方、「認印」は配達物の受領サインなど、日常生活で一般的に使用されます。印鑑は公文書への使用という伝統的な目的以外にも、その芸術的価値やデザイン性が高く評価されており、芸術家が絵画に押印して署名として使用することもあります。

ただし、個人の署名の使用以外にも、すぐ購入できる印鑑を販売されている店舗に行ったら、芸術の目的で使用する印鑑がたくさん置いてあります。また、アニメキャラをはじめ、桜のデザインや日本のモチーフがある印鑑もあります。



デジタル化がますます進むにつれ、
官庁では印鑑の廃止へ向けた取り組みが進んでおり、
この伝統工芸品の使用は将来的に減少するかもしれない。
たとえ実用性が失われても、印鑑はクリエイティブな分野で活かされ続けています。その芸術的な使い方が、日本の伝統とのつながりを守り、この芸術を存続させてきました。



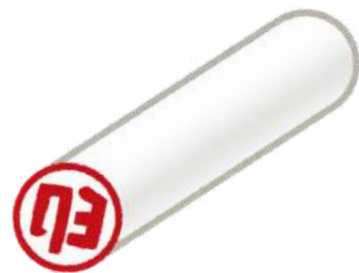


日本最大印鑑モニュメント、甲斐岩間駅前

【印章業のはじまり】

山梨県の印章業は、山にある鉱山から質の高い水晶が発掘されるようになった文久年間（1861年～1863年）に水晶印の篆刻から始まったと言われます。現在、印章の生産量が全国一を誇る産地となっています。印章業は甲府市をはじめ、市川三郷町、身延町に拠点を置き、その伝統工芸は現在まで受け継がれています。

甲府盆地の南西に位置する市川三郷町は、手彫印章の長い歴史を誇る町です。日本一の『ハンコの里』として知られ、市川三郷町の印章業は明治時代に盛んでした。明治時代の山梨では現在と異なり、電話やインターネットは普及していませんでした。印鑑が広がっている中、職人が全国を巡り、各地で注文を受けました。その後山梨県に戻って印鑑を仕上げ、再びお客様のもとへ届けました。





旧六郷町（現市川三郷町六郷地域）では、江戸時代に農家が足袋の製造を副業としてはじめましたが、明治時代には工業化の影響で足袋の製造が衰退しました。その代わりにもともと足袋産業で培った営業力を生かし、印章の注文を営業先で取るようになり、六郷町の印章業が地場産業として定着する基礎となりました。現在印鑑を販売する店が少ない理由は、職人が自宅で手彫りにより仕上げているため、高度な技術と長い時間が必要とされているからです。この技術を絶やさないために、次の世代の子どもたちが、この大切な遺産を引き継ぎ、守り続けていくための取り組みが行われています。

デジタル化世界の中、オンラインショッピングのおかげで衰えていた印章業が海外にも知れ渡ることとなりました。お客様が注文・カスタマイズをしやすくなるため、全国でカタログを配布し、注文を受けつけることが出来ます。それ以来この町が『ハンコの里』として広く認知されることとなりました。



【 印鑑手彫り体験 】

印章資料館をはじめ、市川三郷町では篆刻体験が楽しめる場所が多くあります。国民だけではなく、海外から来たお客様も体験できます。体験の時間は1時間くらいで、材料を決定後漢字のフォントも選択できます。はじめに、鉄筆を使い彫り方の指導をしてくれます。

はんこを彫る際、漢字のデザインによってかなり時間がかかり、困難な部分もある場合は、先生が手直しもしてくれるので、安心して作業できます。（漢字の名前を持っていない方はカタログから自由に選べます。）作ったはんこは自分だけのもので、かなり魅力があります。世界に二つと同じ物は作れません。





国内・海外の来県者に対し、山梨県の印鑑手彫り体験を促進するため、私は望月煌雅工房の望月職人の指導で印鑑手彫りを体験しました。芸術と伝統工芸に興味のある私は、この機会を通じて、完了した水彩画作品に個人のハンコで署名出来るようになりました。個人的に今回の体験はかなり印象が残りました。なぜなら自分自身の印鑑デザインを選び形にするまでの過程は、達成感と喜びを感じさせる貴重な体験だったと言えるからです。体験の前に、望月先生と相談しながら漢字を選び、書体やデザインを選択することができました。デザインの種類は豊富で、私は丸みを帯びた古風な書体を好み、彫刻とインク入れを行う箇所も選択可能でした。実際に自分の名前を彫るのは難しかったですが、望月先生が手直しもしてくれたので、最終的な仕上がりには満足しています。



【 資料館・祭り 】

市川三郷町



市川三郷町では、「印章供養祭」が毎年開催されます。この祭りでは、印章への感謝の意を込めまして、ご祈とう後に焼納供養を行っており、職人の技を譲えるとともに、訪れる人々に地場産業の印章などの魅力を知っていただいています。また、「富士見ふれあいの森公園」内にある「印章の塔」で役目を終えた印章を供養します。去年は体験出来るブースと活動が多くありました。以下のとおりです。

- ・ 印章篆刻体験コーナー
- ・ 六郷太鼓「響」演奏
- ・ 全日本逆さ文字字入れ大会
- ・ 市川和紙「凧作り教室」〔事前予約制〕
- ・ 飲食スペース・屋台

このお祭りは、印鑑職人や印鑑メーカーで構成される六郷印章業連合組合が主催しています。2006年に六郷印章業連合組合が六郷印章博物館を開設しました。甲斐岩間駅の外には、山梨の有名な戦国武将・武田信玄の騎馬隊名言「不動如山」と刻まれた日本最大の印章が置かれています。はんこの資料展示室には、印譜「十鐘山房印拏」をはじめとする貴重な資料、明治時代初期から印章彫刻に使われたノミや砥石などの貴重な道具類や昭和時代の広告・外交許可証、水晶・鉱石、印章販売時の注文書やカタログ、六郷の印章文化を築いた先人の作品や現代作家の作品を展示しています。これらを通じて、印章づくりの歴史と時代による変化の歩みを感じられます。